

第11回会津若松市環境大賞受賞者一覧

部門名	個人・団体	団体名等	選考結果	
環境大賞	個人	田部 佐	<p>15年に渡り、自宅裏手の土手地（約2,000㎡）の草刈や花の植栽などを一人で行っている。夏場は草刈機や鎌を使いながら除草作業をほぼ毎日実施。花の種まき、水遣り、刈り込みなど、花の管理もこまめに行っている。活動開始当時は草刈や植栽の知識に乏しかったが、独学で様々なことを学び、外来種の花を取り除くなど、自然環境の保全にも努めてきた。</p> <p>同場所は、多くの人や車が往来する松長団地の玄関口でありながら、以前は雑草が生い茂り、手入れもされず、ごみ等のポイ捨てが目立つような状態であった。しかし、現在では付近を通る人が季節ごとの花を楽しめるほど良好な環境に改善されており、これまでの活動が地域に与えた影響は大きい。広い敷地を長年に渡り、たった一人で管理し続ける姿は、地域の人にはもちろん市民全体の模範であり、高く評価できる。</p>	
環境賞	個人	上野 孝雄	<p>城西地区環境美化推進協議会の役員として、定期的に地区の環境美化活動に参加。地区内の若松西バイパス沿いや西若松駅などを中心に清掃活動を行っている。特に若松西バイパス沿い（約1km）は車や人の往来が多く、タバコや缶、生ゴミなどのポイ捨てが絶えず、毎回軽トラック1台分もの量になるゴミを、リアカーを引きながら回収している。また、城西リサイクル推進会の会員でもあるため、定期的にリサイクル活動を推進しており、さらに、年に1度、リサイクル工場の見学など、環境美化推進協議会の勉強会にも積極的に参加しており、環境美化に対する意識が高い。</p>	
	団体	桧町内会	<p>町内会の役員が中心となり、町内の緑地や花壇の管理、東部公園（約5,000㎡）の除草などを行っている。毎年、年間計画を立て、4～10月の間、苗・球根の植え付け、除草、水遣り、消毒、ゴミ拾い等を実施している。また、花壇や緑地の状況に応じて除草や水遣りなどが速やかに行えるよう、会員の中から「状況把握責任者」を決め、日々状況を確認。手入れが必要なときは連絡網で声を掛け合い、すぐに適切に対処できる体制となっている。花壇の肥料に歳の神の灰や落ち葉を土壌に混ぜた腐葉土を利用するなど、町内独自の工夫も見られる。</p> <p>東部公園は、以前は雑草が生い茂り、利用者の少ない公園であったが、現在は町内外から多くの人を訪れる憩いの場となっており、人々のコミュニティ作りにも貢献している。</p>	
	美化部門	団体	八角緑化愛護会	<p>約15年の間、町内5箇所の緑地と3箇所の花壇の管理を行っている。年間計画に従って、例年5～11月期の間、緑地の清掃、植栽、花壇周りの除草、雪囲い等を実施しており、長年のノウハウから、班ごとに作業を進める協力体制が十分に整っている。特に花壇作りに力を入れており、きれいに手入れされた多くの花々が、地域の人々の目を楽しませている。定期的に、花や樹木の管理方法などについての勉強会を行っており、近年、会員以外の住民にも参加を呼びかけることで、町内全体の環境美化に対する意識啓発に一役買っている。</p>
	環境教育部門	-	-	
自然環境部門	-	-		
事業部門	-	-		